

現在の状態が続くと思わない方がいい？

森 均

前回（第 89 回 2017 年 7 月）、工業高等専門学校電気工学科を卒業して家電メーカーに就職し、配属された工場で工程管理の仕事をしていたことを述べましたが、入社 1 年目のことです。労使紛争が勃発しました。”外部の団体から指導を受けている若手社員集団” vs ”就職難の時代に地方から入社してきた叩き上げの幹部集団” といった構図でした。私は入社して試用期間が終了したまま組合に入らないでいました。非組合員は 5%ほどでしたので、嫌がらせをたびたび受けましたが、やり方がすべて古い教科書をもとに問題を解決しようとしているとしか思えませんでした。叩き上げの幹部達は、毎日が”鳩に豆鉄砲の状態”で、どうしたらいいかわからない、無防備、人の好き、ただ一生懸命に働く・・・そこを突かれていたと思います。

そんな中、同期入社の人達は次々と辞めていきます。理由は、求人票の内容と仕事が違う、寮は個室と聞いたが 2 人部屋だった、母親が病気になったので故郷に帰る等でしたが、別れ際に「森。お前はどうするんだ？」と尋ねてきます。俺は見限ったぞと言っているようでした。退職の真の理由は他にあるということです。「もう少し頑張ってみるわ」と答えたものの、1 年 4 ヶ月でこの工場を辞めました。ストライキ、サポータージュが時々行われる中、将来に希望をもてなかったからです。しかし、収入は 0 円に。生活費は必要ですので貯金は徐々に減っていきます。当たり前の現実がそこにはありました。失業の厳しさを味わったわけですが、自分を見つめ直し、恩師の勧めもあり大学に進むことを決めたのですが、失業つまり収入 0 円の経験は、教員となり進路指導を担当するようになってから非常に役に立ったと思います。

さて、私が辞めた数年後、勤めていた工場は閉鎖されました。従業員は全員解雇。他の工場に異動できたのは係長クラスの人達で、課長・部長クラスの人達は異動することはありませんでした。工場閉鎖の責任をとったと思います。

学校でも先生方は自ら勉強し少し先のことを考えて行動しないと淘汰されていくのではないかと。良くないことが起こることも想定して備えておかないと、オタオタするばかりでは周囲の人達に不安感しかもたらさない。そんなことが教訓になったかと思えます。

また、当時従業員の人達は現在の状態が永遠に続くと思込んでいたと感じていました。教員に採用された後、先生方にも同じことを感じました。少子化の影響で学校数の減少が話題になっていたにも関わらず・・・。そんな私も、その後校長として閉校を指揮することになるとは夢にも思わなかったのです。（次回 〃〃〃 に続く）

（森 均 特任教授／教員養成センター）